
コメント

張 麟声 「学習者独自の規則」とは何か ——その形成にかかわる認知的要因からの分類の一試案

日本の第二言語習得で「学習者独自の規則」ということが言われることがある。例えば、格助詞「に」と「で」の選択で言えば、「上、中、前」などのあとは「に」を使うという規則を作っているといったのがその例である。本研究では、こうした規則が形成される認知的プロセスについて論じている。まず、規則について学習者が自信を持っているかが問題となり、自信がない場合に、その規則が類推によるのか、帰納によるのか、誤解によるのかが区別される。第二言語習得研究の理論的枠組み作りに貢献する好論文。(I)

岩田一成 初級教材における使役の「偏り」と使用実態

初級教材（特に練習問題）を見ていると、共通するパターン（「偏り」）が見られることがある。本研究では使役を例にそうした「偏り」を検討している。その結果、教材の練習はほとんど、被使役者の格表示（「に」か「を」）に集中していることがわかった。一方、母語話者コーパスを分析すると、そもそも使役文自体の頻度が相当少なく、その中で被使役者が明示的に現れる場合はさらに少ないことがわかる。つまり、教材の扱いは言語使用の実態と合っていないのである。日本語教育文法の1つのあり方を示す論文。(I)

庵 功雄 文法シラバス改訂のための一試案 ——ボイスの場合

従来、初級でのみ導入される受身・使役について、会話コーパスの分析、および現行シラバスの問題点の指摘を通して、初級・中級・上級と各レベルで分散して導入すべきであるという新たな段階的文法シラバスを提案する。具体的にそれぞれのレベルにおいて、どのような受身・使役の表現を学習すべきかが提示されており、それは現在、中級・上級のレベルにある学習者に対しても行い得る、実効性を持つ提案でもあるだろう。(M)

中村紗弥子 終助詞的用法からみる「のだから」の意味 ——産出のための理解を目指して

学習者の誤用の中には聞き手に対して不快感を与えるものがある。「のだから」もその1つである。本研究は、終助詞的用法に対象を限定し、この形式を持つモダルな意味を明らかにした。その意味とは、あることがらが必要だ／してもよいと思っている相手に対し、根拠を示しながら、それは必要ではない／してはいけないと指摘するということであり、「のだから」の部分が根拠になる。この根拠の部分は聞き手もわかっていることであるので、そこから聞き手に対する非難のニュアンスが生じやすいのである。(I)

清水まさ子 学術論文でノダ文はどのように用いられているのか

「のだ」に関しては膨大な数の研究があるが、その大部分は「のだ」の意味・機能を論じたもので、実際にどのような場合に「のだ」を用いばよいのかという産出面での疑問に答えるものはほとんどない。本研究は、人文科学系の学術論文の分析を通してこの問題に迫ったものである。分析の結果、「のだ」は段落末に用いられやすいこと、「のだ」の前後で主題は顕現し、かつ、異なることが多いこと、「のだ」は論証型の論文で多用される傾向があることなどがわかった。今後の論文指導の指針となり得る論文。(1)

楊 秀娥 論文作成における「読む」活動の試み
——中国の日本語専攻における卒論指導実践の分析から

論文作成においては先行資料を読み込むことが必要になる。本研究では、卒業論文作成を最終目的とした形で、資料を「読む」活動を行った実践報告である。「論文スキーマを学ぶこと」「批判的な読みを学ぶこと」という2点を目標に、グループ活動を中心に授業が行われた。その結果、学習者は論文のスタイルを自覚的に発見し、学習者の中で論文を批判的に読む力が活性化された。アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング双方の研究に示唆を与える好論文。(1)

許 挺傑 接触場面における日本語学習者の
共同解決型発話ストラテジー使用についての一考察
——ボライトネスとの関わりを中心に

コミュニケーション・ストラテジーの先行研究では、言語能力の差がその使用に対して大きな要因となると考えられてきたが、本研究では、共同解決型発話ストラテジーにおいては学習者のレベルを問わず同様の傾向が見られたことを指摘する。そしてそれが、共同解決型の接触場面においては、明瞭性・経済性の原則のほかに、話し手・聞き手双方がボライトネス維持の志向を持つ結果であると分析している。(M)

方 穎琳 中国人日本語学習者による語彙的問題を修復するための
コミュニケーション方略

中国国内で日本語を学ぶ学習者と日本語母語話者との初対面会話において、学習者が語彙的問題を解決するために使用したコミュニケーション・ストラテジーを分析した。母語に切り替えたり漢字を使用したりする母語依存のストラテジーは習熟度にかかわらず見られ、学習者に対し、中国語の知識に基づくストラテジー使用がコミュニケーションを阻害する可能性があることを学習者に提示することが必要であると述べる。(M)

李 宇霞 中国人日本語学習者同士の初対面会話における
話題展開パターン
——日本語と中国語の会話を通して

中国国内において日本語を学ぶ初対面の学習者同士が、日本語および中国語でどのような談話展開パターンを示すか、その異同を分析した。日本語での会話と中国語での会話には違いが見られ、日本語での会話では「質問－応答型」が、中国語会話では「相互話題導入型」が多く見られたことから、会話能力向上のためには、前者のパターンから後者のパターンへと指導していくことの必要性・重要性が述べられている。(M)

鳥日哲 中国語を母語とする上級日本語学習者の語りにおける
名詞の使用について
——日本語母語話者と比較して

学習者の発話を聞いていると、文法的には間違っていないものの、母語話者の発話とは何となく違うという風を感じられることが多い。本研究は、学習者と母語話者に、絵本を見てその内容をその本を見ていない人に語るという課題を課した結果を、実質語（特に名詞）を中心に分析したものである。その結果、母語話者は出来事を外から客観的に捉えて表現する傾向にあるのに対し、学習者はストーリーを語る前に、それについての注釈をつける傾向があることがわかった。(I)

大久保雅子 台湾人日本語学習者における
ナ行音・ラ行音・ダ行音の聴取混同

台湾人日本語学習者がナ行音・ラ行音・ダ行音を混同しやすいという指摘はこれまでも見られたが、そうした混同が特に聴取面で、どのような環境において見られるのかについての研究は行われていなかった。本研究はこのテーマを扱ったもので、調査の結果、ナ行音とラ行音には誤聴は少なく、ダ行音の誤聴が圧倒的に多いこと、特に、エ音の前で誤聴が起りやすいことがわかった。つまり、「袖」を「それ」、「撫でる」を「慣れる」と聞き間違えるといったことが起りやすいのである。(I)

王 慧雋 使役の「文脈」
——《強制》の意味を表す使役を中心に

テレビドラマに出現した使役表現を分析し、「強制」の意味を表す使役がなぜ使用されたのかを考察した結果、使役は単に「強制」の意味を表すだけでなく、使役者の行為に対する不満・不適切さを表したり、使役者（自分）の行為の能動性を自慢したりする意図のもとで使用されていることを具体的に分析した。このような意図を場面・文脈という形で学習者に指摘した上で、使役表現を学ばせることの重要性が示されている。(M)

李 婷 メタ言語宣言表現の「文脈化」
——表現教育の視点から

「説明しておくね」「正直に言いますと」のように、これから行う言語行動を宣言するメタ言語宣言表現について、これらがどのような人間関係・文脈において、何のために使われるのかを、テレビドラマのシナリオを用いて分析した。メタ言語宣言表現は、常に相手との関係が大きく関わることを指摘し、学習者が必要な表現を的確に、また柔軟に使用できるように指導するための具体的な場面を豊富に抽出している。(M)

田中 寛 時の“特化”を表す名詞述語文
——〈～時だ〉、〈～昨今だ〉などを例に

「～時だ。」のような時間名詞を述語とする文が果たす意味や機能、文脈について、書き言葉における具体例に基づき、実証的に分析・考察した。取り上げられている時間名詞は非常に多岐に渡り、それぞれの時間名詞の持つ意味特性が、その意味機能と深く関わることを詳細に記述している。同時に、名詞述語文という文のタイプが、話し手の眼前事態に対する静態的な見方・発想を反映した表出機能を持つことも改めて指摘されている。(M)

簡 卉雯 動詞の意味特徴からみる
「ている」の「結果の状態」用法の習得
——縦断的事例研究

「ている」には「動作の進行中」を表す用法と「結果の状態」を表す用法があることが知られているが、学習者にとっては後者の用法の方が習得が難しいと言われている。本研究では、台湾で開発された縦断の中間言語コーパスを用いて、この問題が動詞の意味類型の観点から論じられている。すなわち、「ている」を「てくる」と混同する誤用は主に位置変化動詞に見られ、「ている」を「た」と混同する誤用は主に状態変化動詞に見られたのである。本研究は中間言語研究の新しいスタイルを示す好例と言える。(1)

何 志明 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び
中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度

本研究では、複合動詞習得のためのシラバス、および教材・辞書作成の指針とするために、大規模な日本語書き言葉コーパスと日本語教科書を調査し、それぞれに出現する高頻度の複合動詞を特定した。その結果、膨大な数の複合動詞の中から、使用頻度が高い複合動詞、前項動詞、後項動詞が選別されている。複合動詞について客観的かつ効率的に指導するための貴重なデータが提示されている。(M)